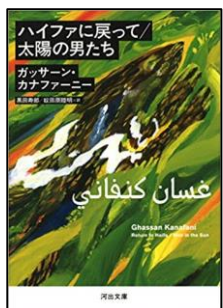


逃げる

逃げろ、逃げろ！ 時には何かから逃げたくなくなったり、逃げなくてはならないことがあるのでは！

※こちらで紹介した資料は今号配布期間中「ぷらっつ☆篠崎コーナー」に展示しています。



『ハイファに戻って/太陽の男たち』(『ハイファに戻って/太陽の男たち』所収)

G. カナファーニー著
奴田原 睦明訳
河出書房新社
B929カ
篠崎ほか所蔵

イスラエル建国の年、ハイファの人々は軍によって住処を追われる。混乱のさなか生後5か月の息子を置き去りにせざるを得なかった若い夫婦は、20年後その家へと戻るが……。自動車に仕掛けられた爆弾により、36歳の若さで暗殺されたパレスチナ人作家による小説。



『SELF DEFENSE 「逃げるが勝ち」が身を守る』

武田 信彦著
講談社
368.6タ
篠崎ほか所蔵

「三十六計逃げるに如かず」と、かの孫子も言っていますが、本書も危険な状況からは逃げるが一番の方法と説きます。トラブルに遭わないための心構えから、実際遭ってしまった時の対処法まで紹介されています。本書で安全のコツを学んで、危機回避力をあげてみませんか。



『逃げて、逃げた先に』(『ぼくりや』所収)

乾 ルカ著
文藝春秋
Fイ
篠崎ほか所蔵

モテすぎて困っている主人公。度を越したモテ様に、現状や女から逃げたい。そこへ「ぼくりや」という、自分のいらぬ能力を交換してくれる店が現れる。どんな能力と交換できるのかはその日が来るまでわからない。果たして彼の運命は……。その展開をお楽しみください。



『身の上話』

佐藤 正午著
光文社
BFサ
篠崎所蔵

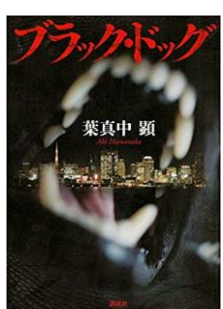
不倫相手と逃避行の後、宝くじが高額当選。平凡だったミチルの人生は大きく狂いだす。ミチルの夫と名乗る男が妻の身の上話として語る本作。登場人物たちの理解しがたい言動にあり得ないと思いつつもぐいぐい引き込まれる話の展開。結末も見事です。



『窓から逃げた100歳老人』

ヨナス・ヨナソン著
柳瀬 尚紀訳
西村書店
949ヨ
篠崎ほか所蔵

誕生日パーティを目前に老人ホームから逃げた100歳老人アランは、大金の詰まったスーツケースをうっかり盗んでしまう。しかし全く動じない彼には、100年分の目まぐるしく型破りな過去があった。警察、ギャング団……数々の追っ手を颯爽と退ける、愉快的逃走劇。



『ブラック・ドッグ』

葉真中 顕著
講談社
Fハ
篠崎ほか所蔵

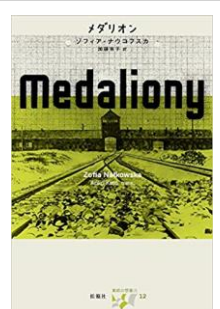
「ヒトは裁きを受けるべきだ、審判は降るべくして降る」極端な思想を持つテロリスト集団に遺棄動物の譲渡会とペット販売のイベント会場が占拠された。会場に彼らが放った黒い獣たちは、容赦なく人間を引き裂いていく。人間中心世界の終焉を掲げる残酷な獣たちから生きて逃れる事はできるのか。生命の平等とは何か問いかける作品です。



『図書館は逃走中』

デイヴィッド・ホワイトハウス著
堀川 志野舞訳
早川書房
933ホ
篠崎ほか所蔵

12歳の少年ボビーは、家にも学校にも居場所がない。あるとき出会った母娘と移動図書館のおかげで平穏を手に入れるが、それも束の間、警察に追われる身になり……。主人公の心を救うのにひと役買うのが、多くの本。移動図書館が舞台の、少年の成長物語です。



『線路脇で』(『メダリオン』所収)

ゾフィア・ナウコフスカ著
加藤 有子訳
松籟社
989ナ
篠崎ほか所蔵

絶滅収容所に向かって走る電車から逃げ出した若い女は、撃たれて線路脇に横たわったままだ。彼女達を助けると自らも死の危険が迫るから……。ナチスドイツ占領下のポーランドにおける出来事を聞き取った証言文学。本の冒頭には「人間が人間にこの運命を用意した」という一行が記されている。



『金ヶ崎の四人』

鈴木 輝一郎著
毎日新聞社
Fス
篠崎ほか所蔵

越前・金ヶ崎にて味方の裏切りにより、挟撃にあい窮地に立たされた信長。撤退する信長を逃がすべく敵地に残った家康、秀吉、光秀。彼らは無事生き残ることができるのか。戦国史上有名な撤退戦を描いた歴史小説。極限の状態での四人の駆け引きをお楽しみ下さい。



『特に深刻な事情があるわけではないけれど、私にはどうしても逃避が必要なのです』

山口 路子著
中経出版
(KADOKAWA)
159ヤ
篠崎ほか所蔵

深く悩み、現実から逃避したいと思った時に心に響く言葉があれば救いになるのではと、著者自身も後ろ向きな気持ちの時に会った言葉の数々を紹介しています。前向きになれないことを肯定して、気持ちを軽くしてくれる一冊です。